

全員の荷物の重さは 30kg ちょっとという程。縦走としてはそれほど重くはないが、腰に持病を抱えている小笠原が、最悪荷物が持てなくなることも考慮し、今回は徹底した軽量化を図った。

小池新道の登り初めは、そこまで急ではないため、二人とも割と余裕の表情であった。しかし、傾斜が急になってくるにつれて、小笠原の腰が痛み始め、出発から二時間ほどで小笠原の団装をバラした。そこから先は、ややペースを落としたものの、小笠原も普通に歩けるようになった。小笠原の団装の大半を持った村上も、まだまだいけそう。これから先も期待できそう。

今日の行程は三俣山荘までの予定であったが、小笠原の腰の負担を考慮し、双六小屋で切ることにした。

《 2 日目 》

- 0400 起床
- 0520 双六小屋発
- 0620 双六岳 (0730 発)
- 0840 三俣蓮華岳 (0930 発)
- 1115 黒部五郎小舎(T.S.)

前日を双六小屋で切ったため、今日は黒部五郎小舎までのらくらく 3 ピッチ。天気もいいので、山頂でのんびりしながら今日のテント場まで向かった。昨日とは打って変わって、小笠原の腰の調子も大分いいようであったため、この日から 7 日目まで、全員が同じ量の団装を背負った。余談ではあるが、双六小屋、三俣蓮華の山頂にいたセーラー服をきたお婆さんは衝撃的であった。

《 3 日目 》

- 0300 起床
- 0410 黒部五郎小舎発
- 0500 2500m 付近
- 0600 黒五の肩
- 0610 黒部五郎岳
- 0740 中俣乗越
- 0845 北ノ俣岳手前のコル
- 0945 2576m 地点
- 1045 太郎平小屋
- 1105 薬師峠キャンプ場
- 1220 薬師岳山荘
- 1310 薬師岳
- 1440 薬師峠キャンプ場(T.S.)

前日までの遅れを考慮して、黒部五郎岳、北ノ俣岳を越え、薬師峠より薬師岳をピストンする行程とした。全体的になだらかな道が続くため、のんびりまったりと進んだ。北アルプスらしくない景色の連続に、三人とも興奮しながら進んだ。太郎平手前の、いい加減疲れてきたところで、雷鳥が姿を現してくれ、疲れを癒してくれた。薬師岳の登りでは、一年生二人ともに疲れが見えていたものの、最後までしっかりと歩き切ってくれた。

《 4 日目 》

- 0430 起床
- 0545 薬師峠発
- 0640 沢出合
- 0800 薬師沢小屋
- 1045 雲ノ平キャンプ場(T.S.)

割と単調な日であった。薬師沢からの登

りで女子高生と挨拶を交わす。そのままの勢いで雲ノ平まで一気に駆け登った。特に村上の口数が一気に増えたのは驚いた。今日のテント場についての段階でも、まだ体力が有り余っていたため、雲ノ平山荘で募集していた水歩荷のバイト(20L)をやって500円を獲得する。

《5日目》

- 0430 起床
- 0545 雲ノ平キャンプ場発
- 0635 日本庭園
- 0735 黒部源流(0830発)
- 0905 三俣山荘(T.S.)

本来であれば、高天原温泉に立ち寄った後に、三俣山荘まで行く行程であったが、連日の暑さのせいで、温泉に入る気など失せてしまい、結局三俣山荘に直接向かうことにした。自分で立てた計画にも関わらず実行できないところに、自分の弱さを感じてしまった。温泉に入れずに、黒部源流で服を選択し、三俣山荘まで向かった。今日もなんとも単調な日であった。

《6日目》

- 0230 起床
- 0340 三俣山荘発
- 0445 鷲羽岳
- 0620 水晶小屋(デポ)
- 0655 水晶岳
- 0735 水晶小屋(0800発)
- 1020 野口五郎岳
- 1130 稜線・トラバース道分岐
- 1240 烏帽子小屋(T.S.)

今山行の中では、最も行動時間の長い日であった。鷲羽岳の登りでは、小笠原が若干つらそうにしていたが、村上に至って元気そうで安心する。鷲羽岳の山頂から見た景色は、多分一生忘れないであろう。硫黄尾根が何とも言えない威圧感を放ってそこに鎮座していた。水晶岳方面に向かう。小笠原は登りが辛そうであるが、後ろからあおってなんだかんだ良いペースで登っていく。水晶岳についての時間は、いい時間であった。烏帽子小屋には早くつけそうだ。そんなところで、野口五郎岳を越え、烏帽子小屋まで向かう。一年生の顔には「疲れた」という文字がデカデカと書かれていた。

《7日目》

- 0400 起床
- 0510 烏帽子小屋発
- 0540 烏帽子岳
- 0655 南沢岳
- 0910 2341m ピーク
- 1030 船窪第二ピーク
- 1210 船窪岳
- 1300 船窪小屋テント場(T.S.)

船窪周辺は悪い、と上級生から何度も聞かされていたものの、地形図上の距離からそこまで時間はかからないだろうと、たかをくくって出発。南沢岳への登りで、小笠原の腰が痛み始める。昨日までは調子が良かったが、そろそろ疲労が蓄積してきたということか。ペースを落としながら進むことにした。南沢岳より先の登山道は、予想以上に悪かった。1ピッチで

進む距離も短くなり、船窪第二ピークで小笠原の団装をバラした。村上は余裕そうだったので、大半を村上に持ってもらうことにした。梯子やワイヤーなどの張られた危険個所を慎重に通過し、船窪小屋テント場に着いたころには、全員がヘトヘトであった。行動時間も前日と変わらず、自分の見積もり不足であったことを反省した。

《 8 日目 》

- 0330 起床
- 0430 船窪小屋テント場発
- 0500 七倉岳
- 0525 北葛岳手前のコルの手前で、小笠原が膝を捻挫
- 0539 ロキソニン服用
- 0550 船窪小屋方面へ引き返す
- 0625 七倉岳
- 0635 船窪小屋 (0730 発)
- 1145 七倉尾根登山口

この日はこの縦走で初めて、朝から雨が降っていた。針ノ木小屋で合流する予定であった城田(会2)のもとへ向かうべく、朝早くから行動を開始した。

05:25 頃、北葛岳手前のコルに向かう途中の下りで、小笠原が足を滑らせ、左足を外側に捻るような形でこけてしまった。歩いていた順番は、小笠原・村上・山下の順であった。小笠原を直下の安全な場所まで移動させ、荷物を下ろさせて様子を伺う。曲げ伸ばしをすると少し痛み、触ると痛むようなので、今日これ以上進むのは断念し、ロキソニンを服用させ、船窪小屋まで戻ることとした。途中、小笠原の荷物

のほとんどを、村上と山下で分担し、小笠原にはシュラフ等、軽いものを自分で持たせて歩いた。船窪小屋に着いた時点では、まだ小笠原もゆっくりではあるが、普通に歩いていた。とりあえず船窪小屋の中で休ませてもらい、これからのことを話し合った。結論としては、腰に加え、膝にも不安のある小笠原がこのまま縦走を続けるのは正直厳しいこと、また、関節可動部であるから、縦走で酷使して悪化するよりも、早く医者に見せて安静にしていたほうが良いと判断したことから、その日のうちに七倉尾根から七倉へ下山することを決めた。

七倉尾根自体はとても急な尾根ではあるが、小笠原をほぼ空荷にし、ロキソニンを服用させたことで、結果的にはすんなり下山することができた。その後は温泉に入り、昼食を食べ、松本に帰った。

後日、小笠原と一緒に病院にいったところ、捻挫と診断され、もしかしたら靭帯にも損傷があるかもしれないが、CTを撮ってみなければわからないとのことだったので、しばらくは安静にしているように指示した。

今回の縦走の反省点は、計画段階での予測の甘さ、そして、一年生の歩行技術の過信であった。計画段階で無理のあるキツめの山行となるということは容易に想像がついたので、できるだけ計画通りに実行できるように、無理のない範囲での計画とするべきであった。また、小笠原のけがは、自分が監督責任を負いきれなかったことによるものである。きちんと一年生の実力、道の状況を把握したうえで、一

年生に先頭を歩かせるかどうかを決めるべきであった。

夏縦走北アルプス南下

日程 8/8~8/16

メンバー 長谷川士門(会2) 松橋華世(会2) 前田達樹(会1) 稲垣翔(会1)

1日目(8/8)

室堂発 10:10~雷鳥沢ヒュッテ 11:05~稲垣頭痛発生 13:00~劔御前小屋 14:00 劔沢キャンプ場 14:35

アルペンルートは恐ろしいほどの人の群れ。トロリーバスで私のガッシャーの腰バックルがその波にのまれ行方不明になりいきなり出鼻を挫かれる。観光客の間を縫うように歩き、

劔御前小屋への急登で稲垣が頭痛を訴える。この日はかなり暑く、熱中症の疑いがあったためしばらく休むが、30分ほどたつといくらかましになり、また歩き始めた。荷物の重さは30~37kg。新人合宿よりちょっと重いぐらいなので会1は二人ともそこまでつらそうではなかった。

2日目(8/9)

起床 3:30~キャンプ場発 4:35~劔山荘 5:00~一服劔 5:30~前劔 6:30~劔岳 8:30~山頂発 9:15~前劔 10:50~劔山荘 12:00~劔沢キャンプ場 12:50

この日は劔岳アタックのみ。予想はしていたが渋滞に巻き込まれ、なかなか進まない。体力的には全く疲れなかったが、人の多さにうんざりした。鎖場の多いルートだが1年生も見ていて安心できたと思う。

3日目(8/10)

起床 2:30~キャンプ場発 3:55~別山南峰 4:55~大汝山 6:50~雄山 7:25~雄山発 8:05~一ノ越 8:50~獅子岳 11:15~ザラ峠 12:30~五色ヶ原キャンプ場 13:20

この日はやっと縦走らしい日。1ピッチ目の別山の急登はつらいが朝の良いウォーミングアップだ。別山南峰で御来光を拝み、稜線上を歩く。朝日にうけた静かな稜線を歩くのは非常に気持ちが良い。この日以降みんな朝の早出に積極的になった。早く出て早く着くのは良いことだ。雄山でお祓いをしてもらい、一ノ越へ下ると、小学生の団体が登って来た。一ノ越までは道がそこまで良いとも言えないというのに子供が登ってくるとなると非常に気を遣う。特に前田は下りが苦手。松橋が先頭にいき、前田の足置きについてしっかり見てくれて助かった。置くところを指示すると結構ちゃんと歩けるがまだまだスピードはでないようだ。焦っても怪我するだけなので丁寧に歩かせる。この日はほかにも度々嫌な下りとそれに加えてすれ違いがあつたりして大変だったが、特に前田には良い歩きの訓練となっただろう。五色ヶ原は静かで気持ちが良い。

4日目(8/11)

起床 2:00~キャンプ場発 3:10~鳶山 4:00~スゴ乗越 7:40~スゴ乗越小屋 8:40~小屋発 9:10~間山 10:30~北薬師岳 12:15~薬師岳 13:25~山頂発 13:50~薬師岳山荘 14:30~薬師平 15:15~薬師峠キャンプ場 16:00

この日は縦走の核心。なにしろ行動時間が長い。朝早く出て1時間半くらい歩いてやっと朝日がでた。暗いうちのピッチは気付いたら進んでいる感じがして嬉し

いと皆が言う。ただ、鳶山の先の下りは左側が切れていて暗いうちは注意が必要だ。アップダウンを繰り返しスゴ乗越小屋へ。ここで切る選択肢も頭に入れていたが、時間的にはうまくいっている。しかし、地図を見返して皆の顔が若干引き攣る。少し悩んだもののやはり進むことに。ここまでかかった時間は本当に上出来だったのでここで行かなきゃいつ行くのだという気持ちだった。日程の都合上まだ疲れも溜まってないとみえたのも大きい。無理しないようにペースは本当にゆったりで歩く。一年生は先頭に行くといつ早くいきがちなので乗越しなどの際もつと後ろを気遣うように指示した。こういったペース配分は松橋が上手い。時間はかかったがなんとか薬師岳へ。特に稲垣は疲れていたように見えたが明るく努めていてくれたように思う。前田は登りだと結構生き生きしている。二人ともなかなか強い。薬師岳山頂は少しガスっていたが、主に下りの時に見えたその雄大な山容は魅力的だ。ぜひまた晴れた日に来たいと思う。長い行動時間で全員に疲れが見えたので下りは30分を目安にピッチを切ったりした。下りとなればやはり前田が辛そうで、薬師峠直前ではかなりゆっくと歩いていた。テン場で場所を探していると、信大ワングルの人達を発見。面識があったので、メロンをおすそわけしたらお返しをくれた。こういった出会いも山の楽しみだろう。勘違いして太郎平小屋に幕営料を払いに行ったらテン場のすぐ横に管理所があった。いずれにせよ天気図が時間的にとれなかったので小屋で天気予報みることができてよかったのだ

が、なんか往復40分を無駄にした気分だ。

5日目(8/12)

起床4:00～キャンプ場発5:30～北ノ俣岳
7:40～黒部五郎岳 11:00～五郎のカール
11:50～五郎のカール発 12:30～黒部五郎
小屋 13:30

前日の長時間行動の疲れを考慮し、遅めの行動開始。歩き自体もけっこうゆったり。前日でうまくペースがわかったのか、無理せず、でも決して遅くないペースで進む。五郎のカールはボルダーができる岩が点在するスポットと聞いていたので、ガッシャーをおろし少し遊ぶことに。怪我に気を付けつつも、けっこう楽しめた。この日は急登も少なく、晴れていて、のんびり楽しい登山だった。

6日目(8/13)

起床3:00～小屋発4:40～三俣蓮華岳6:50
～双六小屋8:30

前日の天気図や小屋の予報などからも覚悟していたが、この日は朝から雨。朝ラーを食べた後少し迷ったが、もともとレスト日のつもりだったので、サクッと行ってしまおうと判断。幸い出発時には落ちてきていたようにみえた。しかし、1ピッチほど歩くと雨は強くなり、風も出てくる。ひらけた稜線に出るとけっこうな寒さだったので、みんな無言でただ進む。三俣蓮華の山頂も滞在時間は数秒でさっさと逃げてきた。双六小屋までは稜線から双六山頂のみを巻くルート歩く。トラバースルートはこの悪天でちょっと悪いのだろうと思った。もうひたすら進み何とか双六小屋へ。とりあえず空焚きをいっばいした。

7日目(8/14)

前日からずっと雨が降り続けていたので沈殿。雨でも進もうかとも少し考えたが西鎌尾根の道の印象があまりよくなかったのと、なによりあの稜線上では風雨で体がかかなり冷える上、簡単には逃げられないであろうと思ったからだ。トランプなどをして過ごした。暇だったこともあり、双六小屋のケーキセットに手を出しそうだったがなんとか耐えることができた。

8日目(8/15)

起床 2:00～小屋発 3:10～縦沢岳 3:40～硫黄乗越 4:15～左俣乗越 5:00～千丈乗越 6:15～槍の肩 7:20～槍の肩発 7:50～中岳 8:45～南岳小屋 10:00～小屋発 10:30～大キレット最低コル 11:30～長谷川ピークを越える 12:40～北穂高岳 14:25～テン場着 15:00

やはり暗いうちに出発。しっかり休んだおかげもありみんな元気だ。二日ぶりの青空と朝日でオレンジに染まる稜線歩きはやはり心地が良い。槍の肩直前で子槍に登る荒川さん達をみつけ久しぶりのあらよをした。縦走中に山岳会のほかの山岳会員に会えるのはなぜか嬉しい。しかし、槍の肩から穂先に続く鮮やかな行列をみて一同げんなり。新人合宿でみんな行っていることもあり、槍の山頂はスルーという結論に至る。そのまま南岳小屋まで行くもまだ 10 時である。ここで止まる予定だったが、コースタイムとの兼ね合いも考え、北穂まで行くことにした。大キレットは何が一番こわかったかという他、他の登山者だろう。すれ違いも面倒だが、なにより 1 度大きな石を上から落とされたときには焦った。幸い怪我人は出

なかったが、ハイシーズンの山はいつもより周りに注意が必要だ。北穂小屋はテン場が遠いし狭い。4 人用テントをまともに張れる所はないだろう。稲垣と前田の足元には大きな岩が潜んでいた。すまない。長くなるかもしれないが翌日に下りきれようかと話し合い、みな下界を楽しみに寝る。

9日目

起床 3:00～テン場発 4:20～D 沢のコル 6:35～穂高岳山荘 7:25～奥穂高岳 8:00～紀美子平 10:10～前穂高岳 10:45～前穂発 11:20～紀美子平 11:35～岳沢小屋 13:50～上高地 15:40

北穂小屋まで行くのが面倒なので穂高岳山荘までトイレを我慢した。奥穂の山頂付近から人が一気に増えたように思う。吊り尾根は追い越しや追い越され、さらにすれ違いなど大変だった。北尾根IV峰松高ルートを塩谷さん、蒲澤さん、そして花谷さんが登っているということで、前穂の山頂から見えるかもと期待していたが山頂はすごいガスだった。あらよをするも、反応はなく、横にいた外国人が真似をして何か叫ぶだけ。それでもガスが一瞬で晴れることに期待して待っていたが、空しく時間が過ぎるだけなので「よし、下りよう」と言ったそのとき、ガスの向こうからあらよが響いてきた。生で聞くのは初めてだったが、すぐに花谷さんの声だとわかり皆が興奮する。数分後、登攀を終えた先輩達と前穂山頂で合流して少し話をした。やはり縦走中の出会いはなにか感慨深いものがあり良い思い出となった。先輩達と別れ上高地へと向かう。重太郎新道は噂通りの道の嫌らしさだった。序

盤は鎖が長く人数がいると大変だ。前田はこの縦走で岩場や下りに関して少しはましになったのではないだろうか。まだまだであるが、縦走も最終日となり成長が少し感じられる気がして嬉しかった。岳沢小屋からのんびり上高地まで歩き、縦走を締めくくる。上高地につき靴を履きかえたとき、じんわりと込み上げてくる静かな心地よい感動があった。バスと電車で揺られ松本に帰る途中、縦走を振り返り思ったことはこのメンバーでよかったということだ。大きな事件もなかったが安心感のある気持ちの良い山行であった。決して楽というわけではなかっただろうが、皆よくやってくれたと思う。前田は登りが強い反面、下りや悪い岩場が苦手であるが、それ自らで理解し無理せず頑張ってくれていた。劔や穂高の稜線などを歩いた経験はその苦手克服にも必ず繋がるであろうし、事実、初日に比べたら幾分かよくなっていただろう。稲垣は基本的に安定している。登りなどで疲れているような表情のときも声をかけると元気に返してくれていたし、料理も得意で松橋と協力してエッセンでいろいろな工夫してくれた。思い切りが良すぎる時がたまにあるので、慎重さを忘れないでほしい。松橋はリーダーとして自分が至らない部分をうまくフォローしてくれた。特に下級生の指導に関しては、とても頼りになった。的確でときにはっきりとした口調で指導してくれる。自分はリーダーとして反省が多い。事前調べの甘さやガッシャーのバックルを入山時になくし迷惑かけたりもした。的確な判断を下せず、隊を不安にさせることもあった

だろう。同じように各々に反省があり、改善すべき点がみつかったと思う。この縦走は形だけみれば成功であり、良い思い出だが、それで終わらず、各々がさらに課題を見つけまた成長していかななくてはならないだろう。

夏縦走南アルプス北上

日程：2015/8/6~8/16

メンバー：会 2) L 大槻 河村 会 1) 会原 小山

行程：易老渡～光岳～聖岳～赤石岳～悪沢岳～塩見岳～北岳～農鳥岳～仙丈ヶ岳～北沢峠

記録：

8/5 (0 日目) 飯田駅=易老渡登山口(前泊)
飯田駅からジャンタクで易老渡へ。料金 ¥25,000。シュラフを出さずに寝たら虫にやられた。暑くてもテントを張ればよかった。

8/6 (1 日目) 易老渡～光小屋

4:30 起床 5:30 出発 12:05 易老岳 14:45 静高平 15:35 光小屋

初日の荷物は 35~6 kg ほど。明るくなるにつれて暑さも増していき、ペースが上がらない。最初は短めにピッチを切るなどして 7 ピッチほどかけて易老岳に到着。三吉平の手前でゲリラ豪雨に遭う。暑さにやられていたところで今度はびしょ濡れになり初日からなかなかこたえた。昨年涸れていた静高平の水場はちょろちょろだが水が出ていた。ここ数日午後のゲリラ豪雨が連続していたためか。光小屋の水場は少し歩くのでここで汲んでいった方がよい。結局 30 kg ほどの荷物で 6.5 ピッチだった昨年より数時間遅れてテン

場に到着した。

8/7 (2 日目) 光小屋⇄光岳～希望峰⇄仁田岳～茶臼岳～茶臼小屋

3:30 起床 4:40 出発 4:50 光岳 5:25 光小屋
6:00 出発 7:00 三吉平 8:30 易老岳 10:20
希望峰 10:45 仁田岳 12:10 茶臼岳 12:40
茶臼小屋

早朝に光岳と光石をピストン。深南部をじっくり眺めてから小屋に戻り出発。この日も日が昇ってから暑く、ペースが上がらない。希望峰に到着するころには聖平小屋はきついと判断し、茶臼小屋までのんびり行くことにした。仁田岳では昨年とは打って変わって景色がよく見えた。茶臼岳過ぎでこの日もゲリラ豪雨に遭い、またしても濡れる。茶臼小屋への下り道は滝と化していた。到着後、小屋前の屋根の下で雨が止むのを待ってテントを設営。光から一緒だった方に缶ビールをごちそうしていただき束の間の談笑を楽しんだかと思えば、その後小屋の方からフルーツポンチと缶ビール、ジュース、茹でトウモロコシをいただいた。こんなに色々いただいているのかとも思ったが、美味しく完食(ごちそうさまでした!!)。

8/8 (3 日目) 茶臼小屋～上河内岳～聖平小屋

3:30 起床 4:50 出発 6:40 上河内岳 9:20 聖平小屋

本山行の中でも指折りのゆとりデーであったこの日は、茶臼小屋から稜線に復帰してすぐライチョウに遭遇。お花畑を過ぎ上河内岳ではひたすらのんびりした。去年は何も見えなかったが、聖・赤石・悪沢の南アルプスの主峰がどどどん!と構える姿が見られ満足した。聖平小屋では、テ

ン泊の受付用紙に信大と書いたところ、「去年スイカ担いできた人?」と聞かれ、覚えてもらっていたことにちょっと感激。名物フルーツポンチに加え、またしてもカップ麺をいただく。到着が早かったため、寝る→カップ麺(昼飯)→寝る→エッセンと牛のようなテン場生活をしてしまった。あと、みんな聖平小屋の水洗トイレには驚いたようだ。多分アルプスー快適なトイレだろうな～。

8/9 (4 日目) 聖平小屋～聖岳⇄奥聖岳～兎岳～中盛丸山～百間洞山の家

3:00 起床 4:25 出発 7:05 聖岳 9:10 聖兎の
コル 10:15 兎岳 12:15 中盛丸山 14:40 百
間洞山の家

この日からいよいよ南アの主演級の山々を踏んでいく日々が始まる。昨年何度も騙された聖の登りも、今年は全部見えていたので(辛いかどうかは別として)騙されることはなかったと思う。聖岳からはうっすら甲斐駒も見えたが、1年生は「遠っ!」というリアクション。予想通り(笑)。昨年はいかなかった奥聖もピストン。ついでに冬のルートとして聖岳東尾根の上部を覗いてきた。聖～奥聖間はほぼ平らな広い稜線で(少し岩場もある)、吹き溜まりに注意する必要があるがテントを張る場所はかなり選べる。奥聖の先はかなり急に落ちているが、踏み跡のようなものがあつた。奥聖直下は雪壁みたいになるのかなと想像。

聖岳から聖兎のコルまでは大部分が重荷ではなかなかきつい大きな段差の岩場で、浮石も多かった。兎岳を過ぎ、中盛丸山に登る頃に暑さがピークとなり、中盛丸山ではかなり水を飲んで休んだ。大槻の実

家の近所に住んでいるファミリーとその知り合いの2014年度TJAR8位入賞という人と会った。いろんな人がいるものだ。その後大沢岳も百間洞への分岐に荷物をデポしてピストンし、百間洞へ向かった。百間洞は雨が降れば地獄、晴れなら天国のようなテン場である。小屋の水の取水地点より上流で体を洗っている登山客がいたりするので、水はテン場がある上流で汲んだ方がよいと思われる。テン場で小山・河村が体調不良を訴えたので、明日は千枚小屋までは行かず、荒川小屋までとすることを決めた。この時点で予備2日を消費したが、終盤の行程を調整すれば予備1日消費に抑えられることを確認した。

8/10 (5日目) 百間洞山の家～赤石岳～荒川小屋

4:30 起床 5:50 出発 7:20 赤石岳トラバース道前 8:40 赤石岳 10:40 大聖寺平 11:40 荒川小屋

昨日の聖岳に続き今日は赤石岳に登る。前日のメンバーの体調不良も考慮してゆっくりめのペースを心掛けたが、百間平先の赤石岳登りのトラバースが始まる地点で小山が疲労感を訴えたため団装を少しばらした。赤石岳山頂ではかなりの人出で写真を撮るにもかなり待った。もともと時間には余裕があったので、広い山頂部をいろいろ歩き回ることができた。ライチョウのヒナも見つけた。ここから荒川小屋までの間には、中央や早稲田のワンゲル(?)とすれ違った。

8/11 (6日目) 荒川小屋～前岳分岐⇔悪沢岳～前岳～高山裏避難小屋

3:30 起床 4:50 出発 6:20 前岳分岐 7:35 悪

沢岳 9:00 前岳分岐 12:30 高山裏避難小屋

千枚小屋までは行かないと決めていたので、前岳分岐の岩陰にガッシャーをデポして悪沢へ。中岳避難小屋から悪沢手前のコルまでは緩やかな稜線でお花畑も見られた。悪沢岳へは急登だが、意外と疲れることなく山頂についた。荷物がないと楽だ。悪沢ピストンは2時間半ほどで終え、高山裏避難小屋へ向けて下る。前岳の崩壊地では会原は怖かったようで恐る恐るといった印象の歩きだった。高山裏避難小屋で南下隊とあらよし、この日はカレーぱーちー。高山裏避難小屋のご主人に、誤って荷上げのヘリが下ろしていたというじゃがいもとにんじんをいただいたため、具たくさんであった。(ごちそうさまでした!!)

8/12 (7日目) 高山裏避難小屋～板屋岳～小河内岳～烏帽子岳～三伏峠小屋

3:30 起床 4:45 出発 7:45 小河内岳 10:35 三伏峠小屋

この日はめぼしいピークもなく、しばらくは樹林帯のため、1年生に読図しながら先頭を歩いてもらった。前日まで自分が結構早めのペースで歩いていたからか1年生のペースも早いなの印象。小河内岳で信大ワンゲルと会い、写真を撮ったり雑談してみたり。聞くと南下隊と同じ行程らしい。小河内岳周辺ではライチョウがいっぱいだった。三伏峠小屋では小屋に天気予報が貼ってあったので見ると、明日は朝から雨…。農鳥小屋までつなげてしまう予定だったのでさっさと寝た。

8/13 (8日目) 三伏峠小屋～本谷山～塩見岳～熊ノ平小屋～(トラバース)～農鳥小屋

天気予報通り朝から雨。本谷山までヘッデン行動。1度だけ雷が鳴ったので不安が頭をよぎったが、少し待って雷はそれきりだったので進むことにした。塩見の岩場は風が強く、体力を奪われる。山頂も山名標にタッチしてそそくさと下る。塩見を越えてからうだうだと長い稜線が続くが、新蛇抜山先で雨が上がり明るくなった。竜尾見晴で農鳥が見えるかと思ったが上の方はガスだった。熊ノ平から大井川源流のゴーロ帯をトラバースし、農鳥小屋へ向かう。ここも風が強く寒かった。間ノ岳～農鳥間の稜線に上がる道は、下るときは南下隊曰く濡れていると悪いということだったが、登りではそこまででもないという印象だった。農鳥小屋では例のトイレがよく見える位置にテントを張ったが、広々としたスペース(本当は2張分)に誰も来なかったので快適だった。

8/14 (9日目) 農鳥小屋⇄北岳

この日はアタック装備で北岳までの往復。標高の高いピークを踏むが、北岳を除いてそこまでアップダウンはない。あいにくのガスで北岳からの景色は臨めなかったが登りごたえがあった。山頂には高校生の大集団がいた。

8/15 (10日目) 農鳥小屋⇄農鳥岳～間ノ岳～三峰岳～野呂川越～両俣小屋
3:00 起床 4:00 出発 5:00 農鳥岳 6:30 農鳥小屋 7:30 出発 8:35 間ノ岳 10:10 三峰岳 12:30 野呂川越 13:20 両俣小屋

小山の希望により「農鳥岳で日の出を見る」ため早めの出発。ヘッデン行動をしている間は西農鳥岳はガスの中だったが、明るくなるにつれて晴れ、農鳥岳では雲海の向こうに登る太陽、富士山、反対側の

ガスにブロッケン現象を見ることができた。小屋に戻ってテントを撤収し、今縦走3回目の間ノ岳を踏んで今度は三峰岳方面へ。三峰岳では明治の山岳部に会った。全員赤ガッシャーに麦わら帽子で山男感があった。そういえばここが静岡・山梨・長野の境界だということを思い出しつつ、仙塩尾根方面へ。2699mの先で細い針金の張ってある悪い岩場を通過。2つある踏み跡のうち下りなら左側の方がよい印象。そこから先は見た目以上に長かった。両俣小屋では暇に任せて野呂川のイワナを捕まえようとじゃぶじゃぶ川遊びをしていた。小山はまるで野生児であった(笑)。ちなみに10cmに満たない若いイワナ(ヤマトイワナ?)を捕獲することに成功した(もちろんすぐリリース)。

8/16 (11日目) 両俣小屋～野呂川越～仙丈ヶ岳～北沢峠=仙流荘(下山)
3:30 起床 4:40 出発 5:25 野呂川越 9:45 大仙丈ヶ岳 10:15 仙丈ヶ岳 13:40 北沢長衛小屋

残すところ夏縦走も予定ではあと2日になった。野呂川越に上がると昨日に引き続き長～い樹林帯の尾根となった。茶臼小屋でビールをご馳走してくれた方が「バカ尾根」といっていたことに納得した。しかし、仙丈に近づくにつれ樹林の中にたまに現れる岩場などから見える仙丈からは新しい印象を受けた。大仙丈から仙丈への稜線は、キレキレの岩場などもあり少し慎重さも必要だった。また仙塩尾根にはほとんど人がいなかったが、仙丈山頂は人であふれかえっていた。日帰りで行ける山なだけある。仙丈からは3ピッチほどで北沢峠に下った。長衛小屋で

テント泊の受付をしようとしたところ、明日は雨という天気予報を発見し、下山を決定した。実は農鳥小屋あたりで1年生の疲労も考慮して黒戸尾根下山はやめて甲斐駒ピストンにしようとは考えていたが、さらに天気が悪いのならわざわざ甲斐駒に行かずに早く下山して、夏合宿に向けて体力回復に努めた方が良く考えた末の判断であった。幸い登山のハイシーズンだったため、仙流荘行きのバスは臨時便が出ており、長く待つことなく温泉に辿り着くことができた。

まとめ

1年生は11日間よく歩いてくれたし、テン場では会話も弾み楽しい山行であった。足置きに関しても慎重さがあって安心してみているという印象であった。以下に反省を記す。

○上級生としての反省：千枚小屋は縦走で行くには不向きなところにある。計画段階から悪沢ピストンにしていた方が計画変更でごちゃごちゃせずに済んだ。想定不足だった。

○1年生の様子：2人とも雨など悪天候になると口数が減ってしまう。悪天候こそ盛り上げていけるようになってほしい。また、着替えなどをあまり持ってきていないようだったが、もしもっと天候の悪い日が多かったら、ずっと濡れた服を着なければなかったかもしれないことをよく考えてほしい。これからは読図や先頭での歩きなど、周りを見る余裕をもっていけるように、さらに山行を重ねてほしい。

夏縦走南アルプス南下

2015/08/08-16

メンバー

：L 渡部優,植野侃太郎(会2)

藪内鷹,山口耕平(会1)

コース=タイム

[0日目：前泊]

10:40 松本駅～15:53 広河原

[1日目：北岳：快晴]

3:00～4:00 起床～出発

5:00～5:10 1850mpo

6:20～6:35 分岐手前…※1

8:20～8:30 2550mpo

9:25～10:25 小太郎山分岐

10:20～10:40 肩の小屋

11:25～12:40 北岳

13:40 北岳山荘=T.S.

[2日目：白根三山：快晴]

3:00～4:20 起床～出発

5:45～6:10 間ノ岳

7:10～7:30 農鳥小屋

8:30～9:00 農鳥岳

10:00～10:25 農鳥小屋

13:05 熊ノ平小屋=T.S.…※2

[3日目：塩見岳：晴時々曇り]

3:00～4:30 起床～出発

5:30～5:45 新蛇抜山手前

6:45～7:00 2542m-col 先

8:10～8:30 2701m-col

10:00～11:00 塩見岳

12:05～12:15 塩見小屋先…※3

14:00～14:10 本谷山

15:00 三伏峠小屋=T.S.

[4日目：合流：晴時々曇り]

4:00～5:20 起床～出発

6:30～6:40 2784mp

7:45～8:00 2623mp

10:-- 大日蔭山手前…※4
 11:-- 高山裏避難小屋=T.S.…※5
 [5 日目：悪沢岳：晴れ]
 3:00~4:30 起床～出発
 5:30~5:40 カール手前
 7:10~7:25 荒川前岳手前…※6
 7:40~7:55(~11:00) 中岳小屋
 8:50~10:25 悪沢岳
 12:00 荒川小屋=T.S.
 [6 日目：赤石岳：風雨～曇]
 5:00~9:35 起床～出発…※7
 10:25~11:35 3050mpo 手前
 11:35~12:30 赤石岳→避難小屋…※8
 13:30 百閒洞山の家=T.S.
 [7 日目：聖岳：ガス]
 3:00~4:30 起床～出発
 5:50~6:10 大沢岳
 6:50~7:10 中盛岳
 8:00~8:10 小兎岳
 9:15~9:25 兎岳
 10:30~10:45 急登直下
 12:25~12:50 前聖岳
 14:45 聖平小屋=T.S.
 [8 日目：移動日：晴れ]
 3:00~4:30 起床～出発
 5:20~5:30 2561mp
 6:20~6:30(~6:55) 上河内岳直下～山頂
 8:00~8:15 茶臼岳
 9:00~9:10(~10:00) 仁田岳分岐～仁田岳
 11:05~11:15 2352mp
 12:20~12:35 易老岳
 13:20 光小屋=T.S.
 [9 日目：光岳：ガスのち晴れ]
 3:30~4:45 起床～出発
 5:00~6:30 光岳～出発
 7:50~8:20 易老岳

11:10 易老渡=下山
 ルート状況-特記事項
 ※1 藪内体調不良
 前泊の夜ご飯、1 日目の自前の朝ごはんが足りなかったようで、シャリバテのような症状がでた。この一本後のピッチの途中で団装をばらし 30 分程木陰で休ませる。ばらし休んだ後は問題なく歩く。
 ※2 三峰山トラバース
 雷鳥沢への下降登り返し前後が”歩きづらい系”の悪さ。ガス、雨で特別気を使うセクションとしては、ここと巨石を歩く崩壊地の通過の 2 つだと思う。
 ※3 塩見岳三伏側岩場
 急な岩場の下り。クライムダウンを数回。好天でも歩荷しながらの 1 年生の動きには目を離せないセクション。
 ※4 板屋岳近辺
 上級生も揃いも揃ってルーファイをミスって(現在地ロスト)しまった。反省。ショックにつき時間が不明。
 ※5 高山裏のご主人
 ゴミを燃やして頂くことに。北上隊は大量のニンジンジャガイモをもらう(カレーパーチー)。今度お会いする隊はお礼を言っておいてくださいね。
 ※6 前岳直下のやせ尾根
 地形図上で荒川大崩壊地とあるし、年々崩壊が進むと前情報もあったし、北上隊より怖いと聞いていたが、通った後であっ今のがもしかして…という程度であった。目立って痩せたポイントはないし、崩壊地にはしっかりした巻道がついている。ヘルメットが必須となるような崩壊地との出会い方はしていないと思う。
 ※7 遅出

午前中の悪天、午後に向けての回復傾向が予想され、予想行動時間も 4H だったので起床、出発を遅らせる。2p 目より雨が上がる。

※8 コーヒーと星座とブルースハーブ
避難小屋で藪内と僕がコーヒーを注文。ご主人夫婦より赤石より見える星座のお話を聞き、♪Miseryでお別れ。“一期一会”を大切にしているご夫妻。ありがとうございました。

※ 水情報

肩の小屋：¥100/1L 北岳山荘：無料

三伏：往復 30mi 高山 30mi 百閒 10mi

※ 2015 年度テン場代情報

広河原 600,北岳 800,熊ノ平 600,三伏 700,
高山 600,荒川 600,百閒 600,聖 500,光 400

反省-感想

・江川 OB 留守への計画書送付を忘れる
運営責任者として、責任感が不足していた。承認時になっても概念把握が不十分だった。今後、「計画準備段階での意識」をより高めるよう注意する。

・1年生への対応

2人とも等分した荷を持って、ついていけば余裕を大分感じたので“より充実した経験をしてもらおう”と、過剰な歩荷をさせてしまった。先頭をルート、体調両コンディションを見て積極的に経験してもらっただけならともかく、1年生にとっては初めての長期縦走中にやらせることではなかった。ぶっ倒れたときの責任対応を私ができるとはかぎらないのに。

先頭経験ならともかく、リスクの伴う“課題の設定”なんてものは、指導側が相 当の実力をもったうえで、目的

動機を共通の認識のもとにしたうえで行われるものだ。ましてや1年生との「信頼関係」を築き上げられてない私はその立場にな っていないわけがない。「1年生を指導するとはどういうことなのか」今一度問い直し、冬での指導にあたる。

・今後の本ルートの展望

メンバーの事情もあり南ア南下ルートは実働9日で計画したわけだが、これといった難所もなく、全体的に行動時間も短く、道もよく整備されているのでこれはこれで”縦走入門”みたいな感じでいいのだが、今回というかこのテンプレートルートは少々物足りないルート…という印象を歩きながら受けた。

白鳳峠の通行禁止エリアを通過してきたというパーティ(どっかの私立)の話しを北上隊から聞いたし、5-6日目は頑張っつなげるのもなくはないと思うし、2-3日目はむだに(?)長い、農鳥本峰へのピストンをカットすれば、つなげられる。

2015.9より北又渡～易老渡の林道が全面通行止め(歩行も不可)という情報が入っている。復旧のめどもなし。光～池口岳までは一般道だから復旧しなければ、池口～遠山郷～JR 飯田町平岡の下山ルートとなるのかな。南方のルートでいじれるとすれば以上の2つくらいだろうか…、北の甲斐駒、千丈、鳳凰を上手く取り入れたラインが描ければ、9日間でも結構充実したルートになるのではないかなと思った。

・ルート上の楽しみ

1日目はバットレスがまじまじ見れるし、8日目以降は深南部の山座同定が行

える。
最終日に近づくほど、南アの深い樹林に癒される。また、南アの大体の概念が一回の山行で入れられる(晴れば)ので、冬も考えると「夏縦走→南ア南下」はかなりおいしい山行ではないだろうか！？
…以上、ジャン負けへのくやしき混じりつつの来年に向けての PR でした。

(文責：渡部)

◎9月

釜ノ沢東俣

報告者：山下 耕平 (会2)

山行期間：2015年9月26日(土)～27日(日)

山行メンバー：[会2] 山下 耕平(CL) 大槻 泰彦

[会1] 小山 悠太

行程

≪1日目≫

0810 道の駅みとみ発

0835 西沢山荘

0840 二俣分岐

0850 鶏冠谷出合

0935 ホラの貝のゴルジュ

1000 山ノ神入溪点

1150 釜ノ沢出合

1250 両門ノ滝

1345 幕営適地 (広河原) (T.S.)

前日まで雨が降っていたため、増水が心配されたが、水量こそ多いものの水は至って透き通っていたため決行した。釜ノ

沢自体は、旧登山道であったこともあり、踏み跡がしっかりとついていた。至る所に赤テープや看板が設置されているため、ルーフアイで迷うことはなかった。小山、大槻ともに沢の経験は浅いが、二人ともしっかりと楽しそうに登っていた。魚留の滝でお助けひもを出した以外は歩きばかりの沢という感じで、ザイルは1回も出なかった。今回の一番の反省は、テントのポールをボックスに忘れたことだった。今回は沢であったから、周りの木にテントを吊るして何とかあったものの、これが稜線上であったら敗退する原因になりかねない。以後気を付けたい。

≪2日目≫

0600 起床

0710 幕営適地発

0830 木賊沢分岐

0905 甲武信小屋 (0935 発)

1040 徳ちゃん新道・近丸新道二俣

1150 西沢山荘

1215 道の駅みとみ

朝、気温が上がるのを待ってから出発した。最初は河原を歩いていくが、所々で水線のある沢を登って行ったりもする。河原も狭くなってきたところからは、沢をそのまま詰めていく。小山も大槻も、沢の歩きが安定していると判断したため、いくつか出てきた滝を直登してみた。最後はきれいなナメが続いたところで、甲武信小屋の作業小屋に出て、少し行くと甲武信小屋に出る。そこからは悪名高い徳ちゃん新道を下り、道の駅みとみまで戻

った。
奥秩父随一の美溪であり、初心者でも楽しめる沢とあって、一年生を連れていく沢には絶好の場所であると感じた。

白毛門沢・万太郎本谷

報告者：山下 耕平（会2）

山行期間：2015年9月15日(火)～16(水)

山行メンバー：[会3] 内田 祥平

[会2] 山下 耕平(CL) 城田 曜子

[会1] 小山 悠太

行程

≪1日目≫東黒沢白毛門沢

0845 白毛門登山口すぐそばより東黒沢に入溪

0905 ハナゲノ滝

0925 白毛門沢出合

1030 タラタラのセン

1120 大岩

1305 トップアウト（白毛門山頂、1330発）

1500 白毛門登山口着

早朝に BOX から、群馬県みなかみ市の、白毛門登山口へと向かう。三時間ほどで到着。

まず東黒沢に入溪すると、しばらくは河原歩きが続く。そのうち左手にハナゲノ滝が出現する。名前とは違い、非常に美しい滝であった。途中、ウォータースライダーを楽しみながら、順調に高度を稼いでいく。沢が初めての小山も、歩きはしっかりしており、何より楽しそうである。全員で先頭を回しながら進んだ。大岩より先に行くと徐々に水線が細くなる。白毛門の山頂までは、しっかりと踏み跡がつい

ていて分かりやすかった。トップアウトした後は、白毛門の登山道を下り、登山口まで戻った。白毛門沢は初心者でも歩きやすい沢であり、ザイルは一回も出なかった。

次の日の万太郎本谷に向け、土合駅から新潟県の土樽駅へ電車で向かい、土樽 PA のすぐそばの空き地で幕営した。

≪2日目≫万太郎本谷

0620 入溪

0730 オキドウキョウのトロ

0815 岩小屋沢出合

0945 一ノ滝手前

1130 頃 巻き道を間違え、懸垂下降をする

1400 往路下降開始

1650 下山完了

本来であれば二日かけて抜ける予定であったが、3日目の天候が雨であったため、最低でも谷川岳肩の小屋までは抜け切ろうと意気込んで向かった。入溪点からしばらくはゴーロ、快適なナメが続く。オキドウキョウのトロより先で、何か所か泳ぎパートが出てきて、全員が寒さを感じる。しかし、美溪とあって、全員のモチベーションは高かった。一ノ滝手前までは、自分たちの想定していた時間よりも早く来れていたため、とりあえず一安心。ここから先が核心であるが、一ノ滝の巻きを高く登りすぎてしまい、この先の巻き道が見えてこないため、懸垂下降を2ピッチし、一旦沢まで下りることにした。全員の下降が終わったのが 14:00 頃だったため、明日の天候も考え、この先に進むこと

は断念し、往路へ下山することを決めた。下山は河童の川流れのごとく、水の流りに身を任せ、すいすいと下ることができた。

今回の敗退は、沢の経験不足ということに尽きるであろう。もっと地形やルートを見る目を養って、次に来るときは万太郎を制覇してやる。

谷川連峰 湯檜曾川本谷

日程：2015年9月4日~5日

メンバー：L 塩谷晃司 加藤穂高 蒲澤翔
(会3)

行程：土合~武能沢出合(入溪)~十字峡~(右俣)~朝日岳~白毛門~土合

行動記録：

9月4日(1日目)

8:00 土合橋~9:30 武能沢~10:25 ウナギ淵
~10:50 十字峡~11:10 抱返り滝~12:10
10m 垂直滝~14:00 B.P

雨のため土合橋駐車場で待機し、気象データを確認する。一度、この雨は止むようだが、昼過ぎからやや強めの雨雲がやってくるようだ。計画では二俣を B.P としたが、その手前の七ツ小屋沢出合上の B.P を目指して歩き出す。

武能沢出合までは、一ノ倉の岩壁を臨める旧道と、湯檜曾川沿いの新道があるが、新道の方が距離は短い。昨晚からの雨で、沢はやはり増水していた。魚留滝上のゴルジュでは、流されると滝に飲まれるのでロープを出した。ウナギ淵手前の巨大なスノーブリッジを右から巻き、ウナギ淵はもちろん水線突破で！平水では問題ないのであろうが、2人はかなり苦戦していた。そこから直線的にゴルジュが続

き、十字峡で方向を変えまたゴルジュは続いていく。時間的な問題で、登攀にロープを使用しなければならない滝はさっと巻いた。人気の沢だけあって、巻き道は明瞭。10m垂直の滝は、シャワーで水流の中のバンドを右から左に渡り、左壁を登った。ここで、遡行図の B.P を通り過ぎていることに気付く。3人で周辺でのビバーク適地を探してみるも見当たらず、遡行図の B.P に下降することを決定。10m 滝はハーケン2枚を打って懸垂した。結局、遡行図の B.P は河原で、増水に耐えられないと判断し、そこから 200m ほど下の高台でテントを張った。ここで、かなりの時間を費やしてしまったことは、反省すべきだ。夜は激しい雨で、沢の轟音が響き渡っていた。

9月5日(2日目)

5:30 B.P 発~6:35 40m 大滝~7:30 二俣
~8:50 朝日岳~10:25 白毛門~11:50 土合橋

明るくなると同時に遡行開始。9月ともなれば寒い。昨日と同じところを登って、10m 滝で残置を回収。二段の赤い滝は、一段目は容易、二段目はロープを出して突破(III+)。中間部にピンがある。続く 40m 滝は、今回の水量では登攀の可能性を感じなかった。中間部まで上がり、左のぬめった壁をスリングあぶみで越え、そのまま高巻いた。このあたりより溪相は穏やかになり、二俣を過ぎるとさらに源流の趣を呈す。二俣の B.P は 2~3 張程度で、他の B.P としては峠ノ沢付近の送電線巡視路が使えるだろう。ツメは流水溝のような踏み跡を辿って藪をかき分けると、朝日岳の草原に出る。下降は白毛門経由としたが、蛇とカエルがたくさん出てく

る。これだけは勘弁してほしい。長い下山なので、水の確保はしっかりしておきたい。

技術的な面では特に問題はなく、十分に楽しめた。もっと早い時期であれば雪渓処理能力が要求されるだろう。非常に変化に富んでいて、何度でも行きたい沢の一つである。

奥利根 利根川本谷

日程：2015年9月19日~21日

メンバー：L塩谷晃司 加藤穂高 蒲澤翔
(会3)

行程：矢木沢ダム=バックウォーター~シッケイガマワシ~オイックイ~大利根滝~三角雪田~(丹後山西尾根)~十字峡

行動記録：

9月19日(1日目)

6:00 水上駅=6:40 矢木沢ダム=7:30 バックウォーター~7:50 又右衛門淵~9:00 越後沢出合~10:50 滝ヶ倉沢出合~11:40 越後沢コボラ~12:20 越後沢コボラ SB上(B.P)

奥利根マリンの高柳さんに水上駅で拾ってもらい、矢木沢ダムへ。30分ボートに乗って、奥利根湖のバックウォーターを目指す。チャーター料は25,000円。湖は満水で、水長沢手前まで行くことができた。何でもない河原は軽快に飛ばし、最初のゴルジュ・シッケイガマワシには20分ほどで到着。ここで、スノーブリッジ(SB)が出てくるようなら、その先はかなり雪渓が残っていることを意味する。今回は2箇所、SBを通過した。又右衛門淵、巻淵は泳ぎを交えて通過し、計画上のB.P、越後沢出合を1時間半で見送る。この先の剣ヶ倉土合は徒渉とヘツリの連続とな

り、体温が奪われるが、水に浸かることを厭わなければ、さして難しくはない。

滝ヶ倉沢出合に着いてもまだ、11時前。このペースなら今日中にオイックイを越えられそうだ、ということで定吉沢を目指す。この時点で、予報に反してパラパラと霧雨が降りだしていた。ここから先はSBの連続。ヘッドランプをつけて、真っ暗なロシアンルーレットに身を投じて走り抜ける。越後コボラあたりで水が濁りだし、水流が勢いを増し始めた。その先のSB出口のゴルジュが抜けられず、雪渓の割れ目から高巻きを強いられる。河床から20m程上の灌木にセルフをとりひとまず待機するが、雨は止まずビバークを決意。そこから10m程上にあがり、人生初のハンギングビバークを経験した。塩谷・蒲澤は全く寝られなかったが、加藤はそれなりに寝られたらしい。

9月20日(2日目)

6:05 B.P発~6:40 河床に降り立つ~7:10 裏越後沢出合~7:30 定吉沢~7:50-8:30 東俣沢出合~9:55 大利根滝~11:00 ハト平

待ち遠しかった朝が来て、出発の準備を進める。この時加藤がロープを落としてしまった。昨日の灌木まで下り、懸垂下降の支点を構築して、ロープを投げる。奇跡的に一本で足りたようだ。加藤が最初に下り、「あったー！」と叫んだ。加藤が落としたロープは河床の岩に引っかかっていた。三人とも胸を撫で下ろす。空は相変わらずどんよりとしていたが、水はかなり減っていた。SBはこの先も丹後沢まで断続的に続き、一番長いものでは5~10分暗闇の中を駆け抜けていたと思う。本当に生きた心地がしなかった。丹後

沢コボラ出合の淵を高巻いて、少し進むと大利根滝。塩谷リードで右壁に1pロープを延ばす。プロテクションは泥に埋もれた残地ハーケンがある。滝を越えるとハト平は目と鼻の先で、快適なビバーク地でたき火をしたり、濡れた衣類を乾かしたりと、まったりと過ごした。

9月21日(3日目)

5:30 B.P 発~6:40 人参滝~7:10 深山滝
~8:00 赤沢滝~8:15 水上滝~8:45 三角雪田
~9:50 丹後山~11:15 丹後山登山口~11:55
十字峡

ハト平の先のビバーク適地、佐市平へは20分ほど。その先から小滝が連続するようになり、楽しみながら越える。1時間強で人参滝、ここは右のリッジより高巻く。続く深山滝は蒲澤リードで1p右壁を登る。上部に残置ハーケンがあるが、ナチュプロは取りにくい。赤沢滝はロープレスで登攀。ヌメリがあり、たわしが役に立つ。最後の水上滝もロープは出さなかった。ツメは意外と短く、あっという間に雪のない三角雪田に出る。藪漕ぎもほとんどなく、無事、利根川本谷の遡行は終了した。小気味のいい笹原を丹後山まで進み、一直線に西尾根を下る。十字峡から野中バス停まで歩く予定であったが、心優しい福井のおじさんに六日町まで乗せていただいた。この日は加藤の実家で、おいしいごはんとお酒をごちそうになった。

群馬県出身の私にとって川といえば利根川で、その最初の一滴を目指すということに強いあこがれを持っていた。今回、その目標を果たすことができたことは素直に喜びたいが、天候判断やルーファイ、

登攀力に関して反省すべきことがある。もっと、沢の総合力を身につけて大渓谷に挑みたい。

一年縦走 梅海新道

日程：9/3~9/7

メンバー：L 小笠原一樹、小山悠太、稲垣翔、会原初美

一日目

5：45 松本駅
8：00 白馬駅
8：25 梅池駅(リフト)
10：10 自然園駅
11：35 天狗原
13：00 乗鞍岳
13：45 大池山荘 T.S.

下界では晴れていたが電車からガスにつつまれた後立が見え少し気持ちが沈んだ。リフト乗り場に着くと整備点検のため一時間待たされた。特に危険箇所もなくその日のテン場には問題なく到着。小山が天気図を忘れたことが発覚したが途中で携帯の電波をひろっていけばよいと判断し山行を続行する。テントに入り、エッセンの鍋をつついていると雨が降り始める。夜中トイレに行った時も雨は降り続いており明日の行動に不安を覚えた。

二日目

5：00 起床
6：10 テン場発
7：50 小蓮華山
8：30 三国境
9：10 白馬岳
9：50 白馬頂上宿舎 T.S.
4時の段階で雨風が強かったため起床を

一時間遅らせた。出発時テン場付近は青空が広がっていたが標高を上げるにつれ辺りはガスにつつまれ 7 時過ぎには雨が降り出した。視界がきかず、白馬岳への岩場の登りでは神経をつかった。風も強く天候回復の兆しがなかったため、その日予定していた白馬鑓ヶ岳へのピストンは中止した。強風と手がかじかんでいたことによりテント設営にてこずる。就寝後も風の音で度々目を覚ます。

三日目

4 : 0 0 起床

5 : 2 5 テン場発

5 : 5 5 白馬岳

7 : 5 5 雪倉避難小屋

1 1 : 1 0 朝日岳水平道分岐

1 3 : 0 5 朝日小屋 T.S.

風が少し強かったが縦走唯一の快晴だった。しっとりしていたガッシャーを乾かすことができた。三国境の先にある鉢ヶ岳は地形図上では登山道が巻いているが稜線に沿って明瞭に道がついていたので登ることができるようだ。水平道の途中フィックスが張ってあるところがでてくるが足場もしっかりしており問題なく通過できた。この日は楽しく歩ききることができた。テン場では四人で 1, 4 キロの Pasta しごきとなった。

四日目

3 : 0 0 起床

4 : 1 0 テン場発

4 : 5 5 朝日岳

8 : 3 0 黒岩平

1 2 : 2 5 梅海山荘

朝から小雨が降っていた。2 ピッチヘッデン行動だったが会原のヘッデンが暗かったため朝日岳で一本の時に替えさせようとしたが電池を忘れたらしく稲垣から借りる。濡れた木道や泥道がつづき小山以外の三人は全員転ぶ。7 時過ぎに小笠原が泥に滑って転び夏縦走で捻挫した左ひざを同じ向きにひねり痛みが出たためその場で一本をとる。10 分経っても痛みが引かなかったため痛み止めを飲み歩き出す。最初は後ろから見ても痛そうな歩き方だったらしいがその次の一本でひざに腫れなどは診られなかったのもその日の行程を通すことにした。梅海山荘に着き少し小屋の中で休んでからテントを張り空焚きして温まった。

五日目

3 : 0 0 起床

4 : 1 5 テン場発

8 : 0 5 白鳥小屋

9 : 2 5 シキ割りの水

1 2 : 5 5 親不知 下山

さっさと下山したいという安易な考えで起床時刻を早めに設定してしまったがヘッデン行動で滑ったら止まらないような粘土質の濡れた下りを歩くことになってしまった。結果前半はコースタイムよりペースが遅かったピッチもあったため反省である。もう少し遅く出発した方がよかった。小笠原のひざは問題なく痛み止めも服用せずに歩ききれた。下山後電車の調べがあまくその日のうちには信濃大町駅までしかいけないことが判明。大町が実家の小山のお父さんに信濃大町駅から松本まで車で送ってもらうことになっ

てしまった。帰るまでが山行という意識をもって計画を立てたい。

一年縦走裏銀座～表銀座

・日程 9月22日～9月27日（予備1日使用）

・メンバー 前田 藪内 山口（会1）

・行程 裏銀座～表銀座

・記録

1日目（9月22日）

高瀬ダム 8:50～13:15 烏帽子小屋～14:27 烏帽子岳～15:32 烏帽子小屋

高瀬ダム着、しかし電波が通じないことが判明する。携帯電話からメールも電話もできないので、近くにあった公衆電話で現役留守山下さんに連絡を取り、代わりにメリスを流していただく。電波状況の確認を怠ったのは第一の反省。その後登山を開始しブナ立尾根を登る。

急登、さらに登山から間をおいていたために鈍りも多少あったが、一定のペースで登れた。ある程度登ると葉が紅葉してきて、それぞれの色のコントラストが非常に印象的であった。

2日目（9月23日）

烏帽子小屋 3:50～6:40 野口五郎岳～9:06 東沢乗越～9:56 水晶小屋～10:36 水晶岳～11:36 水晶小屋～13:13 鷲羽岳～14:40 水俣山荘

この日はとにかく天気が良く、前回（7月第三週裏銀）ではガスで見えなかった山々が一望できた。野口五郎岳まではあまり起伏のない稜線を進む。そこから東

沢乗越へ行き、東沢乗越からの2段階における登りを登りきると水晶小屋となる。水晶岳から望む雲ノ平は非常に広大かつなだらかで行きたい、という願望にさらされた。鷲羽岳への登りと長めの下りで水俣山荘着となる。行程時間長め、後半ほど急になっていったが、この日もいいペースで行動できた。

3日目（9月24日）

水俣山荘 4:12～5:05 水俣蓮華岳～6:26 双六岳～7:26 双六小屋～8:56 硫黄乗越～9:51 左俣乗越～11:10 千丈沢乗越～12:20 槍ヶ岳山荘

水俣蓮華岳山頂直下の急登にて、まだ暗いということもあり少し迷いかけた。きちんとした登山道の判断・注意がさらに必要であった。双六小屋ではこの後の行程に備え水をフルで汲む。その先の西鎌尾根では乗越ごとに1ピッチとこれまたいいペースであった。晴れていればこの日に槍を登ろう、ということになっていたが、千丈沢乗越を過ぎたあたりから雨が降り出してきた。槍ヶ岳山荘につくころには風雨が強くなってきたのでこの日はとっととテントを立てて行動終了。

4日目（9月25日）

沈殿

この日は一日中雨が降っていた。1時ごろ、テントが浸水していることに気付く。シュラフが濡れるのも時間の問題、ということで水かきをする。しかしすぐに水位回復、無意味であったのでテントを移動させることに決める。何とか移動させる

も、あらゆるものが濡れていた。シュラフに関しては、山荘の人をお願いして、乾燥室を使わせてもらい、ある程度は乾かせた。この後は空だきして、話で時間をつぶした。その後、天気図を書くときに、ラジオの電波が通じないことが分かった。どうやら袋が開いていたために、濡れて通じなくなってしまったらしい。濡れに対する意識が足りなかったというのも、大きな反省点である。

5 日目 (9 月 26 日)

槍ヶ岳山荘 5:39~6:18 ヒュッテ大槍~
7:50 水俣乗越~9:03 ヒュッテ西岳~9:
15 西岳~9:28 ヒュッテ西岳~11:24 大
天井ヒュッテ~12:09 大天荘~12:39 大
天井岳~12:53 大天荘

昨日とは違い大いに晴れた。東鎌尾根では梯子、鎖がいくつも出てきたが、問題なくスムーズな通過ができた。西岳後のなだらかな稜線、大天荘までのトラバースぎみの登りもスイスイ通過してあっという間に到着。大天井岳では昨日までいた槍がよく見えた。なお、大天荘で水 6 リットルほど購入した。

6 日目 (9 月 27 日)

大天荘 3:38~5:59 燕山荘~6:21 燕岳
~燕山荘 7:30~10:10 中房温泉

燕山荘までは起伏がなくとにかく快適な稜線歩き。早めに出発し、暗いうちに距離を稼ぐ。

そうしてすぐに燕山荘、のち燕岳へのピストン。燕岳からは我々の縦走の最初の山、烏帽子岳が見て取れた。これまで歩い

た道のりを実感した。燕山荘からは合戦尾根を下るのみ。急坂ではあるが、階段による整備がすごくされていて、足場には困らない。合戦尾根ではこれまでにないくらいすれ違いが多く、一定のペースを保てなかった。そんなこんなで予定よりも早く中房温泉に着。

北鎌尾根・北穂東稜

日程：2015/9/3~6

メンバー：会 3) 菊田 会 2) L 大槻 長谷川(槍ヶ岳まで) 山下

行程：9/3 松本=上高地~水俣乗越~北鎌沢出合

9/4 北鎌沢出合~P8・P9 間コル

9/5 P8・P9 間コル~槍ヶ岳~南岳小屋

9/6 南岳小屋~大キレット~北穂小屋~北穂東稜~北穂小屋~涸沢小屋~上高地

記録：

9/3

6:30 上高地 BT10:00 槍沢ロッジ 12:00 水俣乗越 14:20 北鎌沢出合

前日の早朝の大雨のため 1 日入山を遅らせた。水俣乗越から先はいきなり踏めば崩れるザレ沢を下る。すぐに右側の踏み跡を見つけたが、下っていく途中で一時踏み跡を見失い不安定なガレ場を歩いた。とりあえずガレに沿って歩いていけば迷うことはない。北鎌沢出合は前日までの雨のせいかネット等で見る写真よりもかなり水量が多かった。ゴーロの上に分かりやすいケルンが積んであった。晴れていれば北鎌のコルが見えるため、1 度写真を見ておけば他と間違えることはないと思

われる。エッセン中にテントの20mほど先をクマが北鎌尾根の方に歩いて行った。

9/4

6:00 起床 7:00 出発 9:35 北鎌の科尔(の1つ先の小科尔)10:40P8・P9間の科尔

前日就寝前に会3菊田の体調不良が発覚したため、2日目は独標の科尔までとして遅めの出発。北鎌沢に入り15分ほどで北鎌沢右俣・左俣の出合を通過。木が茂っていて出合とははじめは気づかなかった。水量が多かったため水はかなり上の方でも流れていたが、平常時はもっと下で汲まなければならないだろう。通称クライマーズホイホイは複数あるという情報もあったが1番有名と思われる箇所(小石が乗った岩に×印がある)しか分からなかった。今回は科尔が見えていたので迷わずに進むことができた。1カ所大きな岩の乗越しが面倒なところがあった。頭上の枝にお助け紐がかかっているが枝が細すぎて全く使えない。到着した科尔にはソロテン1張分くらいのスペースがあった。そこからは天上沢側の比較的明瞭な踏み跡を辿りP8へと進んだが、ガスで視界が悪いこととP9を超えればすぐ独標の科尔なのでこの日はP8先直下の科尔にテントを張った。4人用テントでぎりぎり端がはみ出すくらいの広さだった。P8ではdocomoの電波が入った。

9/5

3:30 起床 4:50 出発 5:15 独標の科尔 6:50P11 8:15P13 9:50 北鎌平 10:50 槍ヶ岳

12:00 槍ヶ岳山荘 12:50 中岳 13:55 南岳小屋

独標トラバースを経て稜線に登り返し

始めるところで面倒な乗越しがあった。

P11からは稜上の踏み跡を辿る。P12・P13間の科尔で千丈沢側へトラバースする道(ピンクテープあり)があったが、直登してP13に立った方がよい。P13から千丈沢側の巻き道を進み、ガレ斜面を登って北鎌平へ着いた。北鎌平からは穂先基部の左側から登り始め、右上して行って最終的に穂先のお社の後ろへ直上した。

「JAC実工」の錆びたプレートがあるルートだった。穂先では予想通り写真を撮っていた人に驚かれたりした。穂先で休憩したあと長谷川は一足先に槍沢から下山し、その後残る3人も肩へと下った。肩からは2ピッチほどで南岳小屋に到着した。天気予報から北穂以降西穂までの稜線は厳しいと判断し、翌日北穂東稜を登った後そのまま下山することを決めた。

9/6

3:00 起床 4:05 出発 4:50 大キレット最低科尔 6:20 北穂小屋 7:45 北穂沢・東稜取り付きへの分岐 9:05 ゴジラの背取り付き 9:30 東稜の科尔手前 10:15 北穂小屋 11:55 潤沢小屋 13:35 横尾 15:50 上高地

ヘッドで獅子鼻からキレットに突入。最低科尔を過ぎ長谷川ピークや飛驒泣きといった難所を通過。北穂の登りでは、ペースが早かったため疲れた。北穂小屋からはいったん南稜を下り、東稜取り付きへの分岐で南稜登山道から10mほど東稜側に外れたところに不要な荷物をデポして東稜へ。ガレ沢は上部が不安定だったため慎重に進んだ。東稜に乗ってからはゴジラの背通過に短く2Pザイルを出したが、高度感はあるとも難しいところはなく、20分ほどの時間だった。東稜のコ

ルからは踏み跡が分岐するところもあるが左に行けば小屋直下へ、右に行けば大キレットからの登山道に合流するといったところだろう(左から行った)。ゴジラの背通過中からみぞれが降ってきて非常に寒かった。涸沢へ下ると雨になっており上高地までずぶ濡れになってひたすら歩いた。竜島温泉とその後に食べたラーメンは最高だった。

今回は2年生は初のバリエーションだった。事前にしすぎるほど下調べをしたせいかルーフアイは答え合わせのようになってしまったが、もっと細かいルーフアイ(目の前の岩場をどう乗越すか?など)は皆で話し合いながらより良い判断が出来たのではないかと思う。今後は情報のないルートでも自らルートを見つけていけるような判断力を養いたい。また悪場に関してはもっと歩きの質を高め、浮石を落とさず、かつ素早い行動が可能になるようにしていきたい。

後立山縦走

日程：2015年9月10～13日

メンバー：城田曜子、植野侃太郎(会2)

丸藤公史(会4)

9月10日【1日目】

※本来の計画では9月8日に入山予定であったが、台風の影響で入山を2日間遅らせた。

扇沢 9:50 発

登山口 10:05

水平岬 12:13

種池山荘 13:13

爺ヶ岳南峰 14:05

爺ヶ岳中峰 14:35

爺ヶ岳北峰 14:48

冷池山荘 15:30

話に花を咲かせながら、整備のゆき届いた柏原新道を歩く。柏原新道はアップダウンもなく、非常に歩きやすく快適だ。3ピッチほどで種池山荘に到着。この頃から雲行きが怪しくなってきたため、やや早足で爺ヶ岳を通過、冷池山荘へと向かった。テントを張り終えたと同時に、タイミング良くパラパラと雨が降ってきた。

9月11日【2日目】

冷池山荘 4:32 発

布引山 5:25

鹿島南峰 6:30

布引山 7:58

冷池山荘 8:30

この日は朝から風が非常に強かった。ハイマツに守られていないところでは足がふらつくほどである。風が止むことを信じ、とりあえず鹿島南峰まで歩を進める。しかし鹿島南峰に着いて1時間ほど様子をみるが、一向に止む気配がない。この状態での八ッ峰キレットの通過は困難であると判断し、冷池山荘まで戻り、半日沈殿した。

9月12日【3日目】

冷池山荘 5:22 発

布引山 6:00

鹿島南峰 6:35

鹿島北峰 7:24

キレット小屋 8:38

五竜山頂 13:00

五竜山荘 14:20

夜中風が強かったためやや心配であった

が、起床する頃にはピタリと治まってくれた。昨日と打って変わって無風快晴。朝日に見守られながら気持ちのよい稜線上を歩く。キレットも特に問題なく通過。とはいえ切れ落ちている箇所もあり、梯子も所々出てくるため、重い荷物の際には注意が必要だ。どっしりと構える五竜岳を前方に見ながら進む。最高の天気の中、山頂で40分ほどゆっくりと過ごした。

9月13日【4日目】

五竜山荘 4:47 発
白岳 4:56
唐松山荘 7:00
唐松岳 7:27
八方池 9:08
リフト乗り場 9:58

この日は再び風が強まった。五竜～唐松山荘間は、最初は快適である。唐松山荘付近になると鎖が多く登場し、想像していたより危険であるなという印象。三連休とあって他の登山者も多く、すれ違いに時間がかかった。ここからさらに風は強まり、足早に唐松岳をピストン。八方尾根を駆け下り、2ピッチでリフト乗り場に到着した。

北穂東稜

日程：2015年9月26-27日

山城：北アルプス 北穂高岳

メンバー：○片野亜紀、城田曜子、松橋華世

行動記録：

9月26日 快晴 9月27日 曇り

6:00 上高地発

7:20 徳澤

7:40 パノラマ新道入口

8:30 奥又白分岐

10:40 屏風の頭分岐

12:00 涸沢 4:50 涸沢発

6:30 北穂東稜にのる

7:00 ゴジラの背通過

7:50 北穂高岳山頂

10:00 涸沢

13:00 横尾

15:30 上高地

1日目：紅葉の時期の土日ということで、混雑するだろうと思い、はやめに上高地をでたが、思ったほどの混雑はない。パノラマ新道も下りの人は何組かすれ違ったが、登っている人には会わなかった。パノラマ新道は、9月の中旬から冠雪するまでの期間限定の登山道である。今回は美しい紅葉と快晴のもと快適に通過することができた。登るほどの徐々に色濃くなる紅葉に感動した。道自体は急な登山道であるだけで整備されている。岩がでてきたり、細かったりする部分には小屋の人がFIXをはってくれているので慎重に進めば問題ない。夏合宿をおえた1年生であれば問題なく通過できるであろう。

2日目：登山道を1時間ほど登ると、北穂東稜へ分岐する場所にでる。東稜に向かってガレ場をつめたら、稜線上に出る。北穂東稜自体はバリエーション入門というだけあって、快適な岩稜歩きが楽しめる。東稜にのるまでのガレ場が少しいやらしいが、2年生以上の会員であればそれほど問題にはならない。落石に注意しながら進んだ。2年生の城田を先頭に歩かせる。夏合宿の経験が乏しいため、無駄が多いルーファイではあったが、修正しながら歩いている。2年生2人でよく相談し

ながら歩けていたように思う。歩き自体は、しっかりしていて、ゴジラの背もノーロープで通過した。結局、懸垂もせず一度もロープをださずに山頂についた。天気も良く、岩も乾いていて、条件の良い山行となった。何度行っても気持ちのいいルートだ。

第二回女子山行も無事に行くことができた。冬にも期待である。

明神岳

日程：2015年9月16日

山域：北アルプス 明神岳

メンバー：◎片野亜紀、加藤了幹、丸藤公史

行動記録：

9月15日 晴れ

6:00 上高地

6:20 岳沢登山口

7:00 No.7

10:00 稜線上にでる

11:00 5峰(引き返すことを決定)

15:40 岳沢登山口

前日から丸藤の膝が痛むことは報告してもらっていたが、行けるとことまで行こうということで出発してしまった。膝の痛みを軽視して行くことを決定してしまったリーダーとしての責任を感じる。

稜線までの道は急ではあるが踏み跡とピンクテープだらけで、まず間違えることはない。思っていたよりもずいぶん楽に感じると同時に、少しでも残念な気持ちにもなる。ピンクテープを頼らずに登ろうとしてもどうしても視界に入ってきてしまう。上部の切れおちたところ手前でヘルメットを着用し、慎重に登る。4年生

だけなので特に問題はないが一瞬でも気は緩められないような場所ではあった。そこを過ぎてしまえばあとは視界が開ける。丸藤は朝からずっと足を引きずるような形で痛いと言っていたが、ゆっくりなら歩けそうなので、問題はないと判断して引き返すのを先延ばししてしまった。5峰手前で引き返したいと本人に言われてからことの重大さに気づいた。もし相手が1年生で自分の痛みを口にできない立場の人間だったらと思うと、今後の大きな反省だ。

親不知~下ノ廊下水平歩道~ジャンダルム

2015.9.8-22(実働15+予備0)

メンバー：渡部優(会2)

コース=タイム

[0日目：前泊：曇]

松本駅~親不知駅~登山口(1H)

[1日目：海：曇のち雨：8H/7.5H]

6:40 出発

8:20 入道山

10:20 尻高山

11:20 坂田峠

12:50 シキ割…※1

14:40 白鳥小屋…※2

[2日目：梅海新道：暴風雨：3.5/4.5]

7:00 出発…※3

8:10 1150mp

9:50 黄連の水

10:50 黄連山

11:30 梅海山荘

[3日目：朝日岳：小雨のち暴風雨：9/10.5]

6:20 出発

8:55 池の子文

12:50 長梅山